



失敗を学びに変える

長い夏休みを終えて、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。夏休み中の静かな学校で、「2学期はどんな取組をしていけばいいだろう」「どんなことをすれば楽しくなるだろう」と考えていました。それをできる限り実践していきたいと思っています。

しかし、これまで子どもたちのためを思って取り組んできたことの中にも多くの失敗がありました。事後に子どもたちの様子を見たり、教職員で振り返りを行ったり、様々な方からご意見をいただいたりする中で気づかされることがありました。それはショックであり、恥ずかしさを感じることもありました。もちろん「子どもたちのために」という思いには偽りはありません。でも、それは本当に目的に向かっていたのか。自分本位の考え方にとらわれていたのではないかと自らを振り返ることもありました。熱い思いがあるからこそ、時には視野が狭くなり、間違った方向へ進んでしまうこともあります。

だからこそ、失敗に気づけたらまずはそのことをありがたいと思います。そして、その失敗を学びへと変えていきたい。何が課題だったのか、どうすればもっとよかったのか、これから何を大切にしていくなのかを考え続けたいと思います。このことは、個人だけの課題ではありません。学校、教職員集団としても同じことが言えます。失敗を防ぎ、また失敗に気づくためには、教職員以外の様々な方の話に耳を傾けたり、他校の実践から学んだりする必要があります。一つの考えに固執せず、広い視野をもって多様な考え方を受け止める柔軟な姿勢を大切にしたいと思います。

「幸せな学校」の実現に向けて、子どもたちへの熱い思いを持ち続けながら、失敗を恐れず学び続けていきたいと思っています。

先生の魅力

「将来、学校の先生になってみませんか？」

子どもたちにそう尋ねてみると、多くの場合首を横に振ります。「どうして？」と聞くと、「大変そうやから」と答える子が少なくありません。子どもたちにとって、先生という職業が大変そうな仕事と映っていることは少し寂しいことです。なぜそう見えるのでしょうか。先生たちが毎日忙しそうに動いているからでしょうか。それとも「忙しすぎる」「様々な対応に追われる」「教員のなり手が少なくなっている」といった話題が、ニュースやインターネットなどで多く取り上げられているからでしょうか。

確かにそのような面があることも事実です。先生たちは日々忙しく働いていますし、子どもたちのことを考えて悩むこともあります。思い描いたようにうまくいく日ばかりではありません。

しかし、先生という職業には大きな魅力があります。子どもたちの成長に寄り添い、その姿を間近で見ることができます。一人一人のがんばりや成長に立ち会えることは、何にも代えがたい喜びです。また、先生は教える立場でありながら子どもたちから学ばされることもたくさんあります。

もしかすると、子どもたちだけでなく、学校外の方々にも先生という仕事の魅力が十分に伝わっていないのかもしれないかもしれません。そう考えると、私たち教師自身がもっと笑顔で、もっと楽しそうに働く姿を見せることが大切なのだと思います。子どもたちと過ごす毎日を大切にしながら、これからも笑顔で向き合っていきたいと思っています。

子どもたち！先生という仕事は楽しいよ！みんなといっしょに学び、成長できるとてもすてきな仕事です！

